

🌻 切れ目ない在宅医療と介護を提供するために

今回は、各委員の在宅医療・介護連携に関する意見を事前に集約し、それをもとに「切れ目ない在宅医療と介護を提供する上での課題」が話し合われました。

① ケア会議が不十分

個別のケースを検討する会議が重要であるものの、地域やグループによってレベルがまちまちで医師の参加も低調。会議を牽引する核となるものが必要との意見がありました。

② 地域的なサービス資源の不足

訪問介護は、地域によっては希望する時間・回数
のサービスを受けられない。また訪問看護、訪問リハ
ビリも少ない。日生では通所リハビリもなく、リハビリの
資源が不足している、との意見がありました。また、
山間・離島でサービスを提供する事業所への事業費
補助を検討してはどうかとの意見がありました。

③ どの程度の規模で完結を目指すのか

国は地域完結型の包括ケアを目指しているが、市レベルで医療・介護サービスが完結しないなら、近隣市町と相互の協力が必要との意見がありました。

④ 病院は急変時の受け入れ、レスパイト入院の受け入れ強化を

特に公立病院にこの役割を担ってほしいという意見があった一方、夜間に頻回な処置が必要な方のレスパイト入院を受け入れる際には、希望するケアと病院の対応の限界について事前に家族とよく話し合うことが大切との意見がありました。



これらの課題は、次回以降さらに掘り下げた議論や実態の検証を進め、引き続き具体的な対応策を検討していきます。

🌻 多職種研修(多職種ミーティング♥北エリア)の報告

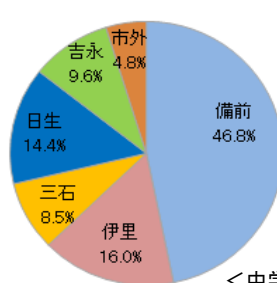
専門部会活動として、北エリアの多職種参加による交流会が総合保健施設で、9月5日(月)に開催されました。すでに地域では、顔見知りの関係が出来つつある中で、今回は共に事例を協議する中で、「他職種の考えや役割を理解し、自分の役割を再認識する」ことを目的に実施しました。一段とつながりが深まったことと思います。



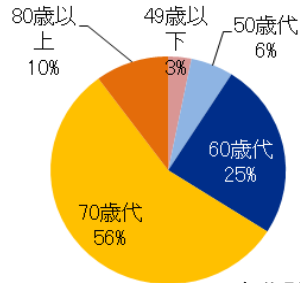
在宅医療推進講演会(社会福祉講座)の報告

市民への啓発活動の一環として、9月22日(木)にリフレセンターにおいて、在宅医療と看取りに関する講演会を行いました。当日は、世田谷区立特別養護老人ホーム芦花ホームの常勤医師 石飛幸三氏をお招きし、「穏やかな最期を迎えるために～平穏死のすすめ～」と題してお話いただきました。市内外から270名余りの参加があり、いつかは訪れる老いと人生の終焉をどのように受け入れるのか、時折、DVDの視聴に目を潤ませながらも話に聞き入り、命の尊厳について考えさせられました。

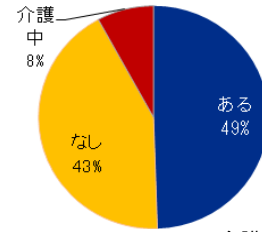
参加者の顔ぶれ



<中学校区>



<年代別>



<介護経験の有無>



次回は、12月の開催を予定しています。

<編集後記>

第2回協議会では、在宅医療と介護連携に関する課題が議題でしたが、地域ケア会議の実態や地域包括ケアを完結するエリアの範囲などについて、特に熱心な議論が交わされました。どちらもスムーズな連携活動を支えるために大切な基盤となるものです。足元を固めるための重要な協議にしっかりと時間がかけられています。



【事務局】

備前市保健福祉部医療福祉連携課
〒705-8602 備前市東片上126
TEL: 0869-64-1875 FAX: 0869-63-4206
E-mail: bziryoudenkei@city.bizen.lg.jp